

スペイン・バリャドリッド市の「日本文化デー」

パリ事務所

2月2日（土）から二日間、スペイン・カスティーリャ・イ・レオン州の州都バリャドリッド市で「日本文化デー」が開催されましたので、その様子を報告いたします。

イベント開催の経緯

バリャドリッド市といわき市とは、東日本大震災直後の2011年5月、バヤドリッド市への留学経験者がいわき市の関係者であったことをきっかけに、バリャドリッド市在住の日本人や地元の方たちが力を合わせて「頑張っぺ！いわき」キャンペーンを開催したことで絆が大いに深まりました。

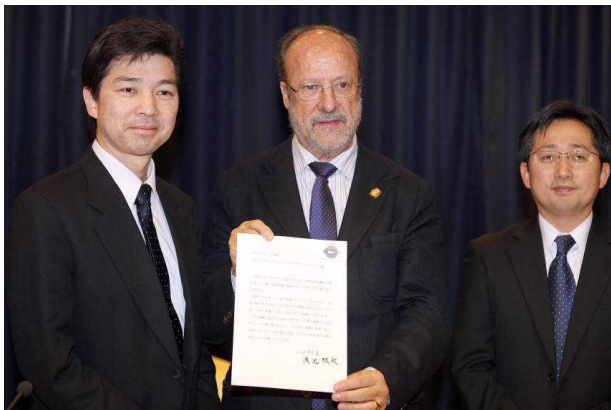


バヤドリッド市・位置図

今回はいわばその次なるステップとして開催されたもので、その様子は、地元紙 El Norte de Castilla でも大きく取り上げられました。

イベントの様子

会場には開会式から多くの市民の方々が集まり、ステージでは和太鼓や三味線など日本の伝統芸能が披露されるとともに、能面をはじめとする伝統工芸品の展示、折り紙教室などバラエティに富んだメニューが世代を超えた多くの皆さんの関心を集めていました。また会場の入り口では福島県いわき市の復興支援に向けて「頑張っぺ！いわき」Tシャツの販売などが行われるとともに、開会式では、渡辺敬夫いわき市長からの感謝状がパリ事務所長を通じて披露され、レオン・デ・ラ・リーバ市長へと手渡されました。



感謝状の進呈の様子。左より黒瀬（クレアパリ）、レオン市長、前東書記官（在スペイン日本国大使館）



「頑張っぺ！いわき」キャンペーンの様子

日本スペイン交流 400 周年

日本、スペイン両国では、2010年9月の首脳会談合意を踏まえ、2013年が慶長遣欧使節団派遣400周年にあたることにちなんで、1年余りの期間にわたり「日本スペイン交流400周年事業（スペインにおける日本年）」、「日本におけるスペイン年」がそれぞれ展開される予定です。

スペインにおける日本年の会場の一つとしてバリャドリッド市も予定されており、今後さらに同市における日西の交流活動が活発化することが期待されます。

地元メディアの反応

参考までに、El Norte de Castilla 紙（2013年2月2日付）の記事の仮訳を掲載します。当日の会場の雰囲気を感じて頂ければ幸いです。

「日本文化デー」

市長、2013年は日本が大いに語られる年と予想—市民センターで日本文化展開催—

バリャドリッド市のフランシスコ・ハビエル・レオン・デ・ラ・リーバ市長は、この土曜日、日本関連行事の中で、「2013年はバリャドリッド市において日本が大いに語られる年になるだろう。様々なレベルにおける交流が近い将来ますます具体化していくことになる」と確信を込めて述べた。

市民センターで開幕した「日本文化デー」イベントでの開会の式辞の中で市長が述べたもので、このイベントでは、日本という存在がスペインに登場してから400周年という機会をとらえ、料理、音楽、書道、華道など様々な分野における日本文化体験事業が行われる。

市長は日本大使館のアタシェをはじめ「スペインにおける日本年」委員会の複数のメンバーとともに、種々の伝統工芸品の展示、あるいは琴・太鼓・寿司などの実演を見学した。その間、市長は前回日本を訪問した際のエピソードを披露。「津波に襲われた後、スーパーマーケットの前できちんと列を作る日本人の映像を見て、他者を重んじ規律を守るアジア的な文化の価値について考えさせられた。素晴らしいと常々感じている」と強調した。

「いわきからの手紙」

最も地震・津波被害を受けた町の一つ、福島県いわき市。バリャドリッド市長は開会の挨拶の中で、これまでも支援を続けてきたいわき市は今回の日本週間イベントにおいても特別な存在、とコメント。会場では、いわき市復興支援の資金を集めるため T シャツ販売



太鼓演奏の様子

などが行われた。

「私（いわき市長）たちは、バリャドリッド市からの親愛の情や様々な支援に感謝している。我々は復興の途上にあるが、バリャドリッドと一体となって取り組んでまいりたい」と渡辺敬夫市長はバリャドリッド市長への手紙の中で述べた。この手紙は日本からの代表によって朗読、披露された。

バリャドリッド市長は挨拶の中で、日本を「伝統と現代性の共存する国」とし、「バリャドリッドは正しいスペイン語がつかわれている古都であり、是非日本の皆さんにも語学に理想の町として沢山訪れてほしい」と締め括った。

土曜日は琴の実演や和太鼓コンサートが行われ、展示室では日本刀など伝統工芸品の紹介、折り紙やデッサンの子供向け体験コーナーが設けられた。また別室では 同時に、日本の文化、産業、伝統などの紹介映像も流された。さらには寿司を作るためのご飯の炊き方や魚の下ろし方、味噌汁や肉じゃがの作り方などの講座も 開催。日曜日の朝には、書道や生け花、茶道に関する講演会も開かれる。まさに市長の言うとおり、「来て、見て、日本文化を心行くまで堪能」できるスペクタクルと言えよう。

日本とスペインとの友好が、バリャドリッドにおけるような草の根の活動を通じてより豊かなものへと発展していくよう、パリ事務所としても最大限のサポートを続けてまいります。

(パリ事務所長 黒瀬敏文)

CLAIR